

鉄砲洲神社 論語素読 解説

(平成 23 年 6 月 3 日)

述而第七

35 子曰く、奢しやなれば 則すなわち不孫ふそんなり。儉けんなれば 則すなわち固こなり。其その不孫ふそんならん 与よりは寧むしろ固こなれ。

孔子が言うには、贅沢な人間はわがままで礼に従わない人が多い。儉約家で慎ましく過ごしている人は頑迷固陋、かたくなな人が多い。但し、わがまま勝手にやるよりは、頑迷固陋の方がましだ。

民主党の菅さん・鳩山さん・小沢さんを並べてみると、奢・・・自分勝手にわがまは鳩山さんそのままです。自分の言を好き勝手に振りかざして、しかもそれが通ってしまうから不思議だと思います。儉・・・儉約の人はいませんね。固は奢よりはましですが、あまり上品さは感じられないし、どうにかすると卑しさも感じる。菅さんは最近、卑しさが出てきているし、今回の茶番劇でも、その場限りの嘘をよくついたものだと思います。瞬間的に「その内に辞める」とめくらましの発言をただけで、鳩山さんは勝手に6月と知っているし、菅さんは普通にいけば来年の1月、あわよくばもっとという思惑が透けて見えるような玉虫色の決着をしていました。贅沢わがままな人なのか、頑迷固陋なのかで分けてみると、人物像が透けて見えて、これなりに判断基準になるなと思います。ちょうど判断基準になるようなドタバタ劇をしているので、非常に分かり易いと思います。

36 子曰く、君子は坦たいらかに蕩蕩どうどうたり。小人は長しょうじんえに戚戚とこしたり。

孔子が言うには、君子というものは安らかで伸び伸びしている。小人（肝っ玉の小さい人）はいつでもこせこせして落ち着かない。

君子はのどかで穏やか、春風が吹いてくるような感じを周りに与えるから、自然と君子の周りに人が集まる。けれども小人は、いつ見てもこせこせ動きまわって落ち着かないから、まともに話が出来ない。こちらへんは氣を付けた方がよかろうと感じました。

37 子、温しにして厲おんしく、威はげありて猛いからず、恭たけにして安きょうし。

孔子は穏やかで厳しい。威厳があって荒々しくない。憤み深く堅苦しくない。

孔子の人物像はこういうものだと言っていますが、本当かなと感じます。亡くなる2、3年前くらいはこういう雰囲気があったという感じがしますが、放浪の旅を続けている時はこんな調子ではなかったと思います。最晩年になると、人間はだいたいこういう雰囲気になってくるものではないでしょうか。坂本坦道先生も穏やかで威厳があって、まさにこの文章のような人物だったと感じます。